

メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 1:1～8 「広がる福音」

[1-3]「神のみこころによる、キリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています」パウロはこの書を使徒28章に書かれているように、ローマ皇帝のさばきを受けるために捕われの身で、ローマの獄中で書いたと考えられる。(AD60年頃)

それでこの時期に書いた手紙は獄中書簡と呼ばれる。コロサイ人への手紙、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、ピレモンへの手紙の4つである。コロサイの町はエーゲ海に面するエペソの町から東へ160kmほど離れたところにあった。近くにはラオデキヤとヒエラポリスの町があり、これらの町々は小アジアのフルギヤ地方に位置していた。パウロはこの手紙の冒頭で他の手紙と同様に、コロサイの教会へあいさつを送る。彼はまず自分のことを「キリスト・イエスの使徒」と位置づける。使徒とは神に選ばれ、権威と使信とをゆだねられ遣わされた者の意。さらにここでは「神のみこころによる」と付け加えられている。このことは彼の使徒としての立場が決して自らの才能や努力によるものではなく、あくまでも彼を選ばれた神の恵みとあわれみによるものであることを明らかにしている。また同労者テモテは「兄弟」と呼ばれている。同じ主イエス・キリストを信じるクリスチャンは皆、主にある兄弟姉妹なのである。「聖徒」とは一点の汚れもない聖い人という意味ではなく、神からの召しによって選び分かれた神の民という意味で信仰者の身分、立場を表している。また「忠実な兄弟たち」という呼びかけは、彼らを励まし、彼らが一つの霊的な家族に連なる者であることを教えている。そして彼らの上に父なる神からの恵みと平安を願い、祈りと感謝のことばを述べる。

[4]「それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです」

コロサイのクリスチャンたちはキリストに対する生き生きとした信仰を持っており、そのことは他のすべてのクリスチャンたちに対する愛となって彼らのうちに現れていた。これがパウロの感謝の理由であった。「キリスト」はヘブル語メシヤ（油注がれた者、後には神から遣わされた救い主を意味するようになる）のギリシャ語訳。「イエス」はヘブル語ヨシュア（主は救い）のギリシャ語訳であり、日本語のような苗字と名前ではない。パウロは文脈に応じてキリスト・イエスとイエス・キリストの両方を用いる。

[5]「それらは、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づくものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの中で聞きました」「それら」とはコロサイ人たちの信仰と愛を指す。パウロはこの信仰と愛は天にたくわえられている望みに基づくものであると教える。この望みとは神の確実なお約束そのものを指していると考えられる。すなわちキリスト再臨のときに完成

する約束のこと。→ I テサロニケ4:16~17,

I コリント15章 このような天にたくわえられてある望み、救いの約束こそクリスチャンの信仰と愛の裏づけなのである。そしてそれはコロサイ人たちが宣べ伝えられた福音の真理のことばを聞いたことから始まった。→ローマ10:17

[6]「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです」

コロサイ人たちに伝えられた福音の中心は神の恵みであった。この恵みは神の救いのみわざのことであり、それを受ける価値も資格もないのに愛のゆえに一方的に与えられた神の過分のお取扱いである。神の前に自分の罪を悔い改め、イエス・キリストの十字架の死による贖いを信じる者は罪赦され、救われ、神の子とされ、永遠のいのちが与えられるのである。→ヨハネ3:16　そしてコロサイ人たちはこの恵みの福音を単に聞くだけでなく、それを本当に理解し、神を知らないで生きていた生き方がまったく変えられ、信仰、希望、愛を持つにいたった。またそのことは二つの結果をもたらした。①実を結ぶ…内面が神のみこころにかなうものと変えられ、御霊の実を結び(ガラテヤ5:22~23)、その人を通して回りが変えられて行くこと。②広がり続ける…福音が勢いをもって増え広がっていくこと。それは世界の至る所に広がり、またコロサイにも届いたのであった。

[7-8]「これはあなたがたが私たちと同じしもべである愛するエパfrasから学んだとおりのものです。彼は私たちに代わって仕えている忠実な、キリストの仕え人であって、私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました」

パウロは直接コロサイには行っていないが、使徒19:10によれば彼がエペソで福音を二年の間伝え続け、「アジアに住む者はみな…主のことばを聞いた」とあり、エペソでパウロから福音を聞いた人々がアジア中に散って行って福音を伝え、その一人がコロサイ出身のエパfrasであり、彼が故郷に帰って福音を伝えたのである。彼のことをパウロは「私たちと同じしもべ」と言う。これは主キリストの命じるままに働く者のこと。彼は獄中であって行くことができないパウロたちに代わってあなたがたに仕えている忠実なキリストの仕え人であるとも言う。そしてこのエパfrasは一時ローマのパウロのもとに行き、コロサイ教会の現況を知らせたのであった。彼はパウロに御霊によるコロサイ人たちの愛を知らせた。この愛とはガラテヤ5:22に書かれている御霊の結ばせてくださる実としての愛であり、相手が愛される価値、資格があるかどうかを一切問わず、一方的にひたすら愛する愛、見返りを求めない愛、神がイエス・キリストの十字架において示してくださった愛のことである。福音を本当に理解し、イエス・キリストを信じる者はこのような御霊による愛を持つに至る。そしてこの愛が世界を変えていくのである。

福音はそれを聞いた人が本当にそれを理解した時、その人のうちで実を結び、また世界中に広がり続けていくものである。今日も福音はそのようにして世界中に広がり続けている。人を滅びから救いへ、死からいのちへと転換させるこの素晴らしい福音を私たちもキリストのしもべとして宣べ伝えていきたい。